

令和7年度 第1回 静岡市健康福祉審議会健康づくり専門分科会 会議録

1 日 時 令和7年8月7日(木) 19:00~20:30

2 場 所 静岡庁舎新館低層棟3階 茶木魚及びZOOMを利用したリモート会議形式

3 参加者 委 員 会場出席(8名) 森本分科会長、坂口委員、谷内委員、松崎委員
菅瀬委員、豊島委員、渡邊委員、山本委員、平野委員
リモート(3名) 八木委員、増田委員、鈴鹿委員

事 務 局 保健福祉長寿局次長兼健康福祉部長 松下
健康福祉部 参与 長田

健康づくり推進課長 長谷川

参事兼口腔保健支援センター所長

兼障害者歯科保健センター所長 小畑

総務係長 大勝

健診係長 竹田

保健指導係 佐藤、望月、柴山

関係課等 葵区役所健康支援課 課長 大里(リモート)

駿河区役所健康支援課 課長 松野

清水区役所健康支援課 課長 石上

高齢者福祉課 課長 杉田

子ども家庭福祉課 課長 久保田

食品衛生課 課長 佐藤

4 傍聴者 なし

5 議 題

(1) 健康爛漫計画掲載事業 令和6年度事業評価・令和7年度事業計画について

(2) 令和7年度第1回健康爛漫計画推進作業部会の報告と意見交換

6 会議内容

事務局 開会

(司会)

【議題】

森本議長 まず、令和6年に新しく策定されました静岡市健康爛漫計画第3次の概要につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 ≪計画の位置づけ、基本理念、目標、基本方針、掲載事業 について説明≫

森本議長 ただいまの説明につきまして何かご質問がありましたら挙手をお願いします。

無いようですので、議題1の静岡市健康爛漫計画第3次、掲載事業の令和6

年度事業評価と令和 7 年度事業計画について、事務局から報告をお願いいたします。

事務局 《資料 1 に基づき説明》

森本議長 ただいまの説明につきまして、私から一つ、資料 1 の 2 ページの令和 5 年度と令和 6 年度の比較グラフで B 評価が令和 6 年度は増えている理由は何ですか？

事務局 令和 6 年度事業評価において、B 評価が 23 件となっていますが、このうち 7 件は、重複事業、つまり、複数の分野で同一事業が再掲で評価対象となったものです。重複を除いた実質的な B 評価事業数は 16 件で、令和 5 年度も同じく実質 16 件でした。件数としては、横ばいですが、全体の延べ事業数が令和 5 年度 289 件から令和 6 年度 225 件へ減少しているため、割合としては上昇しています。また、前年度より下がって B 評価となった事業が、令和 6 年度は 5 事業ありました。そのうち 2 事業につきましては、評価指標を見直して前年より高い目標を設定したものの達成できず B 評価となっておりました。これは、より高い成果を目指して取組んでいると評価できる側面もあると捉えております。こうした点も踏まえつつ、今後の事業推進において、各担当課で工夫や改善を図っていきます。

増田委員 S 評価 24 事業中、紹介いただいた 3 事業の中で、元気静岡マイレージと生涯現役地域づくり環境整備事業の評価指標について質問します。経済界でも非常に人手不足の現状があり、対策になる重要な取組だと思っています。まず元気静岡マイレージの令和 6 年度の実績が非常に良く、参加者 1,253 人でしたが、令和 7 年度の計画は 920 人で 300 人ぐらいマイナスになっています。また、生涯現役地域づくり環境整備事業も高齢者の雇用・就業者数 485 人実績のところ、令和 7 年度の計画は 135 人になっています。『ちゃむしずおか』については、アクセス 48,000 の実績で、令和 7 年度の計画は 51,900 と設定し、前向きに考えていると感じましたが、先の二つの事業について、目標値の設定理由を教えてください。

事務局 一つ目の元気静岡マイレージにつきましては、市が策定している様々な計画にも搭載され、目標設定・進捗管理をしています。おおむね令和 6 年度から 5 年間という計画が多く、計画期間において、段階的に参加者を増やし、年間 1000 人の参加を目指していく方針でした。この方針はコロナの時期以降、参加者が低迷し、実績が上向かない状況を背景に、参加者を少しずつ増やしていこうと、現実的な目標設定を行ったものです。一方、令和 6 年度は予想以上に参加者多数となりましたので、今年度も参加を促す働きかけを行いながら、令和 6 年度並みの実績が出ましたら、評価指標を見直す方向で考えております。二つ目、生涯現役地域づくり環境整備事業は、令和元年から令和 6 年度までは

国の受託事業として実施し、ネットワークしずおかにおけるマッチング実績に加え、シルバー人材センターへの紹介による就労実績も評価指標の対象としていました。しかし、令和7年度からは、国の受託事業を終了し、市の自主事業として継続するのを機に、評価指標の対象をネットワーク静岡のマッチング実績に絞りました。その結果、令和7年度の評価指標は令和6年度と比べて数値が小さく135人となっています。一方で、対象を従来のシニア世代からミドル世代にも拡大しており、生きがいを持って暮らせる社会参加を推進する事業として充実を図っています。

谷内委員 子育て応援総合サイト『ちゃむしずおか』の実績評価は、アクセス数だけで判断するのではなく、ページへアクセスした結果どうであったか、どうするかにあると思いました。静岡市の出生数が年々減少していますが、出生数向上のためにも、出産・子育て支援につながる評価であるとういと思います。

事務局 ご発言のとおり、アクセス数等の数値のみでは評価しきれないところもあると思います。今年度、計画を進めていく中でも、取組の評価指標について、回数といった数値のみでなく満足度やアンケート結果等、実際の効果が測れる評価指標としていくよう登載事業の関係課とも共有しております。また今後作業部会の中でも再確認しています。

豊島委員 元気静岡マイレージは保健委員でもよく活用しており、とてもよい事業だと思います。さらに若い人にこの事業を広げていけるよう、東京海上日動のように協力してくださる他の企業にも協力をお願いするなどして、評価指標1,000人ではなくさらに高い目標を掲げ、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。

子育て応援総合サイト『ちゃむしずおか』についても、子育て中の方がアクセスして、いろいろなイベントに参加するということはとてもいいことだと思います。参加した人へ、感想など一言もらうことで、一つの評価ができるのではと思います。評価につきましても目標値は高く持って進めていった方が達成度は高いかなと思います。

坂口委員 元気静岡マイレージについて、令和7年度、周知方法の見直し、また参加特典も新たに追加されたということですが、まずは事業を知ってもらうことが必要だと思います。私が教育委員会にいた時分に関わっていた事業について、まずは“知ってもらう”ためにどうしたらいいか、いつも話題になっていました。“知ってもらう”ために、例えば、サイト掲載をしても、サイトに1回アクセスして魅力を感じないと、若い人ほど次につながらないといったアドバイスをマーケティングの大学の先生からもらったりしました。いかに魅力的な発信をするか、工夫が必要なのだと思います。

森本議長 では、議題2、健康爛漫計画推進作業部会の報告について、事務局から報告をお願いします。

事務局 ≪作業部会の位置づけ、計画の重点取組事項について説明≫

《資料2に基づき、第1回健康爛漫計画推進作業部会の報告》

森本議長

ただいまの説明について質問や、事務局からあげられた2点の検討事項に関するご意見をお願いします。

私からは、注目を集める広報手法で、スポーツチーム名があがっていましたが、他にも是非、くふうハヤテなどの市内スポーツチームの検討をお願いします。。委員の皆様、ご意見いかがでしょうか。

平野委員

本日資料を用意しました。(配付資料あり)企業との連携について一つ情報提供です。SAFEコンソーシアムとは、会全体として安全で安心して働ける職場づくりの機運を上げ、加盟者が互いの知恵を共有しながら取組を進めていくものです。いくつかの取組がある中で、SAFEアワードというものがあります。こちらは、企業や団体の取組内容を応募いただき、優れた取組を表彰します。この表彰制度5部門のうちの1つの部門に企業・関係機関連携部門というものがあります。その企業・関係機関連携部門におきまして、昨年、ゴールド賞という一番優れた賞を受賞した福岡市の取組を別紙で資料にしました。福岡市と株式会社ルネサンスと株式会社スポーツオアシスとが連携し、福岡市職員がバランスボールを活用したエクササイズを3か月間実施、その前後で健康リスクの測定を行って評価し、良い成果があったという取組です。こうした事例以外でも色々な取組があり、サイトに掲載されています。

谷内委員

薬物依存に関して、薬物を使う生徒の学校での扱いは、「妊娠したら退学」のようになってしまうことが多く、ドロップアウトするしかない現状があると思います。私は産婦人科医ですが、最近産婦人科病院でも、女性のヘルスケアという分野で、薬物依存について、取り上げられることがあります。市としても精神科を専門に活動されている先生や、薬物依存治療経験者の講演会を開くという形で医師会と市が協力して、関心がない人へ啓蒙活動を行うことも必要だと思います。もう1点、虐待について、その現状、実態があまり知られていない状況です。例えば、何件ぐらいの虐待があるのか、具体的な数字で示すことが、みなさんの関心を集めることになるのかと思います。虐待疑いの際には、189へ連絡するようと言われていますが、実際虐待をした保護者は、「もうしません。今後はちゃんと子供の面倒を見ます」と言い、簡単に保護者の元に子どもが戻されてしまうということもあるのではないかと思います。児童虐待の問題点や改善策を、多くの人に知らせていく必要があると思います。ただ「虐待を予防しましょう」のみでなくもう一步踏み込んだ情報提供が必要かと思います。

そしてもう一つ、健康教育(母子)について、私は今静岡市の公立中学校に行きまして性教育の思春期講座を担当しています。この講演に関しても外部講師を頼むなら、講師への謝礼や交通費を出せるよう十分な予算確保をするなど考えてほしいと思います。

- 事務局 虐待また、薬物依存に関しても、実際の数値などとともに、具体的に現状を伝えていくことで、皆さんが身近に問題意識を持ってもらえるのではないかと
いうご意見をいただき、すでに実施しているものもございしますが、関係各課とも共有しながら、より踏み込んだ啓発活動を実施していけたらと思います。
- 森本議長 私も、禁煙の講座を学校向けにやっていますが、お金（報償費）を少額ながらもらっていますが、生徒からのアンケートなどをもらってやりがいを感じて
おります。ただ、学校で講義できる応援団が7人しかおらず、講師を増やして
いきたいと思っております。他に何か質問がありますか。
- 松崎委員 注目を集める広報手法について、歯科医師会では、6月の歯と口の健康週間に
あわせて、青葉イベント広場にて歯っぴーふえあという市民向けイベントを
やっています。一昨年は集合のイベントができず、駅前でチラシを配ったり、
幼稚園・こども園・小学校などで歯ブラシやフロスを配布したりしました。他
にも、ラジオ「S-Wave 歯っぴーらいふ」放送で月1回、歯科医師が歯のこと
について、話をしていましたが、今時ラジオを聞く若い人たちはほとんどおら
ず、SNS やインスタなどで情報を得ているということで、歯科医師会でも、
SNS を使った周知活動にシフトしており、今後さらに検討しなければならない
と思っています。
- 菅瀬委員 栄養成分表示のリーフレットについて、自分にあった食事を選べれば良いと
思いますが、どんな食事が自分にあうのかわかるような内容なのか、もしそれ
が分からないと栄養成分が分かっても、自分に適したものを摂ることにはつ
ながりにくいと思います。私は、スポーツ栄養分野に関わることも多いですが、
例えば若い女子選手でかなり痩せている選手、このような人が成分表示を見
ても逆に「カロリーがあるから食べない」や、自身がやっているスポーツは「体
重が軽い方がいいから食べない」となることも考えられます。果たして、それ
が健康面でどうなのか。その習慣が、成人しても続いていくことは適切でない
こともあるので、本人にとって適切な摂取量がわかるような情報を一緒にリー
フレットに入れられるといいなと思います。
- 渡辺委員 食生活改善推進協議会では乳幼児から高齢者、特に SNS を使えない世代に、
現場で関わっています。将来子どもたちの生活習慣病予防のために、子どもの
頃から薄味に慣れるように伝えていますが、現代は共働きの家庭が多く、味の
濃い市販の食事や外食料理になりがちです。親には、一日塩分 6.5～7.5 g 程度
に、そして子どもは親の体重半分ですので 4.5 g 程度にするように伝えていま
す。またそのためには「子どもの食事を中心に作り、大人用はそれに味を加え
る」ようにすることを勧めています。他に、歯と口についても、教室を開催す
るときは必ず、歯と口は体の入り口ですので、健康の原点は口腔ですという啓
発をしています。いずれにしても、乳幼児・高齢者は、スマホなども持って
おらず SNS は使えないため、対面でのアプローチが一番必要だと思います。

- 豊島委員 保健委員として様々なイベントで啓発活動をする中で、紙媒体を配布した時に、見る人は見ますが多くの人は見ない現状があると思います。使い勝手の良い啓発品に「自分の健康は自分で守ろう」など文字を添えて配布したりもしますが、なかなか注目を浴びる広報にはつながらないと思います。様々なスポーツイベントやエスパルスなどのスター選手の力を借りるなど企業と協力することもよいですが、小学生をターゲットに教育することで、家で親御さんに伝え、親も振り返ることができるという、早い段階で子供たちを巻き込むことが良いと思います。物をただ配るだけではなく、配り方や配布物の中身などアイデアを寄せていくことで広報活動がさらに進むかと思います。
- 山本委員 注目を集める広報手法について、著名人を活用して周知していくのが広報手段としては、一番いいと思います。私ども（健康保険組合連合会）の対象は静岡県内の健康保険組合の被保険者の方で、特に病気になった方に、これ以上悪くならないよう伝えていくという活動が中心です。例えば今年の 8 月に血圧の講座を保健師にお願いしています。講義に合わせて、実際に血圧測定し身体の状態を知ってもらったうえで、どうしたらいいかを伝えてもらうという内容のもので、このように保健師、栄養士、歯科の協力を得て、それ以上悪くならないようにするというを中心にして活動しています。
- 八木委員 以前、税務署のモニターをやっていた時に、子どものうちから租税の意識を高めようと租税教室を開いていました。意識を高めるために健康教室を年代ごとにやっていくのはどうかと思いました。健康爛漫計画にも書かれていた、医療費や介護給付費の増大といった現状を考え、少しでも早い段階でその意識を伝えていくということが大切かと思います。
- 鈴鹿委員 誰もが健康になれる環境づくりということで、しずおかからだに eat75 のような事業で社員食堂で社員さん向けに栄養成分表示を示していくなど工夫していったってはどうかと思いました。
- 森本議長
事務局 では次第 3、その他連絡事項について事務局から何かありますでしょうか。
《報告事項なし》
- 森本議長 次第 3 の議事は何も無いそうですが、全体を通じて何かご意見やご質問はありますか。
- 豊島委員 新聞にも出ていましたが、今ある 9 つの保健福祉センターを、3 つにするという話が決まっています。地域住民にしっかりと説明をしてから統合に向けて話を進めて欲しいと言ってきました。6 つの各保健福祉センターがなくなり、寸断されてしまうのではないかと考えています。「大丈夫」（寸断されない）とは聞いていますが、住民に十分な説明がないまま話が進んでいることに不安を感じています。私は保健委員として、健康について啓発活動をしています。私たちも活動する中で、保健福祉センターの助言を受けながら活動しています。ぜひ住民が困らない施策を進めてほしいと願っています。

森本議長 他にご意見やご質問はありませんか。本日は貴重なご意見をありがとうございました。委員から出された意見等につきましては今後の計画の推進に活かしていただきたいと思います。以上で本日の議事は終了しましたので、進行を司会者にお返しいたします。

事務局 (司会) ご審議いただきありがとうございました。次回、第2回の健康づくり専門分科会は、令和8年2月5日(木)午後7時よりこちらの会場で実施予定です。以上をもちまして、令和7年度第1回静岡市健康福祉審議会健康づくり専門分科会を閉会します。